

ブリタニカ・オンライン・ジャパン ～ Year in Review 2014 ～

ブリタニカ・ジャパン株式会社

ブリタニカ・オンライン・ジャパンは、日本語の『ブリタニカ国際大百科事典』と英語の *Encyclopædia Britannica*® をベースとした知のポータルサイト。日本はもとより、世界の学術研究、報道の第一線で活躍する執筆陣が、あなたの調査、学習をサポートします。論文やレポート、ビジネス資料の作成など、さまざまなシーンでご利用になれるサービスです。

◆2014 年を振り返る

ブリタニカ・オンライン・ジャパンがスタートしたのは2006年6月。以降、百科事典の定期的なアップデートに加えて、オプションの多言語百科事典サービス *Global Reference Center* のリリース、英語の百科事典サービス *Britannica Academic* の大規模なリニューアルなど、コンテンツと機能の両面でサービスの拡充を図ってきました。おかげさまで、信頼できるレファレンスツールとして、多くの大学や公共図書館様に導入いただいているサービスへと成長することができました。

本号では、「ブリタニカ・オンライン・ジャパン Year in Review 2014」と題して、2014年に行ったアップデートを振り返りながら、サービスの利用傾向についても分析してみます。

◆News in 2014

2014年に行ったアップデートの中でも、特に目立ったものをいくつか紹介します。

◎日本語の百科事典サービス — 小項目事典から大項目事典、国際年鑑へ

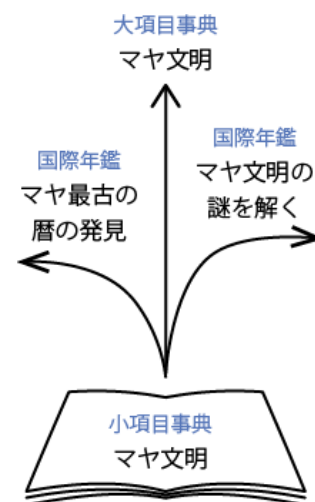
引く事典として情報をコンパクトにまとめた小項目事典の項目ページに、関連する大項目事典および国際年鑑の記事へのリンク[関連項目]を追加しました。これにより、これまでの検索や閲覧メニューの利用とは別に、小項目事典から関連する大項目事典や国際年鑑の項目を参照できるようになりました。より関連性の高い項目や、項目名検索などでは見つけにくい項目を、[関連項目]からたどってみてください。

例えば、中央アメリカで古代から16世紀まで栄えたマヤ文明。小項目事典はマヤ文明が栄えた時代と特色を簡潔に説明しており、関連項目には大項目事典の「マヤ文明」と、国際年鑑の関連記事をあげています。国際年鑑の「マヤ最古の暦の発見」(2013年版)は、2012年にグアテマラのマヤ遺跡で発見され、終末論で騒がれたマヤの暦について、また「マヤ文明の謎を解く」(2000年版)は、当時の最新の知見に基づいたマヤ文明研究を、学術的な要素を押しえつつ百科事典とは異なる観点から論じています。

◎日本語の百科事典サービス — マルチメディア大幅増強

2014年は写真やイラストなどのマルチメディアを増強した1年でした。日本国内の名所、旧跡、ランドマークの写真や、シカゴ美術館所蔵の美術品や世界のさまざまな都市の建築物など、その数は2014年だけで6,000点以上にもなります。「百聞は一見にしかず」というように、これらの写真やイラストが私たちの

▼「マヤ文明」の関連項目



added
6,000+
images

理解をより深めてくれるのは間違いありません。今後も、グローバル企業という利点を生かして、アメリカ本社 Encyclopædia Britannica Inc.と連携しながらマルチメディアの拡充に取り組んでいきます。

◎英語の百科事典サービス Britannica Academic の URL が変更になりました

英語の百科事典サービスの URL が変更になりました。サービス名称も *Britannica Online Academic Edition* から *Britannica® Academic*と改めました。

(新) <http://academic.eb.com/>

◎フランス語の百科事典サービス

Encyclopædia Universalis がリニューアル!

オプションの多言語百科事典サービス *Global Reference Center*^{※1}で提供しているフランス語の百科事典オンラインサービス *Encyclopædia Universalis* がそのデザインを一新しました。新しくなったインターフェースをぜひお試しください。

※1 *Global Reference Center*ではフランス語のほか、中国語(簡体字)、韓国語、スペイン語の百科事典サービスを提供しています。

▼Encyclopædia Universalis のトップページ

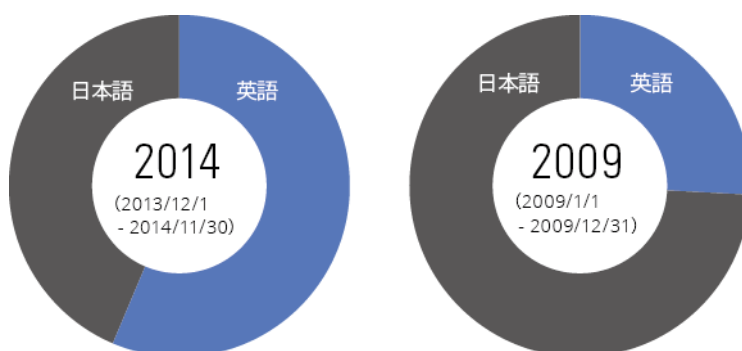


◆Usage Trend in 2014

ブリタニカ・オンライン・ジャパンでは、標準仕様で日本語と英語の百科事典サービスを提供しています。その日本語と英語の百科事典、どちらのサービスがより使われていると思いますか？

管理者向けの利用統計参照サービス *Britannica Usage Statics* では、日本語と英語の利用統計を個別に取得できます。せっかくなので、ユーザー全体の利用傾向を、5年前と見比べてみましょう^{※2}。2009年は25%ほどだった英語の百科事典の利用比率が、2014年には過半数を超えています。大学やビジネスのグローバル化への流れが実感できる結果となりました。2010年に英語の百科事典サービスが大規模なリニューアルを行ったことも、英語の百科事典の割合が伸びた一因かもしれません。

▼日本語 vs. 英語 どちらがよく使われている？



※2 利用統計の Document、Queries、Media を合計した全体の PV(ページビュー)をもとにしています。

◆マニュアルやポスターを活用しましょう!

ブリタニカ・ジャパンでは、ブリタニカ・オンライン・ジャパンを多くの利用者に有効活用していただくために、さまざまな資料・ツールを用意しています。他のサービスにはないきめ細やかなサポートと充実した資料が、ブリタニカ・オンライン・ジャパンの魅力のひとつでもあります。

ポスター	図書館内やラーニングコモンズなどに貼って、ブリタニカのことを知ってもらいましょう。
ガイドツアー	A4 用紙 3-4 枚でまとめた簡易マニュアル。講習会の配布資料として最適です。
クイックガイド	パウチ加工の簡易マニュアル。耐久性があるので、共用の閲覧端末のそばに常時置いて、誰もがいつでも見られるようにしておきましょう。
ポケットガイド	ポケットサイズの折りたたみ式の簡易マニュアル。興味のある方に、自由に持ち帰ってもらいましょう。

▼ポスター



▼ガイドツアー



▼クイックガイド



▼ポケットガイド



◆FAQ よくあるご質問

講習会やプレゼンなどで、お客様からよくいただくご質問をまとめました。

Q1.日本語の百科事典は翻訳版？

日本語の各記事には、英語の百科事典 *Encyclopædia Britannica* の記事の全訳、部分訳、翻訳と書き下ろし補足、全面書き下ろしなど、項目によりさまざまな形態があります。興味のあるトピックなら、日本語と英語、どちらの記事も読むことをお勧めします。

Q2.更新頻度は？

オンライン百科事典の最大の恩恵は、適時内容がアップデートされることではないでしょうか。日本語の百科事典のアップデートは年 4 回。ノーベル賞受賞者や世界遺産登録などのレギュラーな改訂のほか、時代の変化や科学の進歩に呼応して、ブリタニカ国際大百科事典は改訂を続けています。英語の百科事典 *Encyclopædia Britannica* は、さらに頻繁に改訂を行っています。

Q3.学外から利用できる？

VPN や EZProxy など、お客様側にリモートアクセス可能な環境が整っている場合、学外からの利用も可能です。またマイライブラリなどの学生/教職員専用の Web ページがある場合は、リファラ認証を利用して学外から利用することもできます。リファラ認証は既存の Web ページを利用するため追加の投資は必要なく、手軽にリモートアクセスを実現できます。

◆無料トライアル受付中

ブリタニカ・オンライン・ジャパンに関するお問合わせ・お申込みは、株式会社紀伊國屋書店 学術情報商品部(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp)までお願い致します。

*お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。